

人を
守る



人と街をまもる

西宮市消防局

HYOGO NISHINOMIYA



女性職員の声



Voice of female staff



西宮市消防局 女性職員の声

私らしく、誇りを持って。
全ては市民のために。

瓦木消防署 予防係長 階級 消防司令

平成15年入局。
警防隊、救急隊、予防課を経て、令和2年より現職。
一男一女の母。趣味は、料理、ヨガ。
毎年、息子、娘それぞれと二人旅をするのが楽しみ。



消防士の姿に憧れを抱く

Q. この仕事を選んだ理由は？

平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」が起きた時、当時中学3年生の私は神戸で被災しました。あの未曾有の災害で、自らの命を顧みず、人々を救出する「消防士」の姿を目の当たりにし、勇気づけられると同時に「消防」という仕事に強く興味が湧くようになりました。調べるうちに、女性消防士が既に活躍している事を知り、迷わず「消防」という仕事に飛び込みました。



子供たちからのプレゼント。息子作のフクロウと娘作の風景画です。

業務に性別の壁なし

Q. 女性だから出来ない（出来ない）業務はありますか？

西宮市消防局では女性だからと限定された業務はありません。男性と同様にあらゆる業務に従事できます。私も24時間勤務で機関員や警防隊、救急隊等を経験し、現在は毎日勤務者として予防業務に従事しています。また、女性はライフイベントが仕事に影響しやすいですが、消防の仕事は、多岐にわたり、選択の幅が広くあります。女性が仕事を続けることに向いている職種だと思います。様々な業務を経験し、あなたに合った業務を見つけて欲しいと思います。

あなたの感性を生かして

Q. 就活生へメッセージはありますか？

男性だけの視点であった業務に多くの女性の視点が入ることで、新たな「消防」が築き上げていけると私は思っています。男性消防士が長い年月をかけて培ってきた「強さ」や「遅しさ」の中に女性としての「感性」を足すことで、西宮市消防局は新たなステージへと発展することができます。消防士になることに不安はあると思います。私もそうでした。ですが、不安だから努力できます。不安は成長の糧になります。「市民を守りたい」その志があれば大丈夫です。私たちと一緒に更に発展した西宮市消防局を作り上げていきましょう。

西宮市消防局の広報ビデオもご覧ください！！



西宮市消防局 女性職員の声

性別は個性のひとつ
“自分だからできること”

総務部 総務課 給与係長
階級 消防司令

平成14年入局。
救急隊、救急課を経て、令和3年より現職。
趣味は、手芸、旅行、映画鑑賞。
リフレッシュ休暇を利用してアメリカのディ
ズニーワールドへの家族旅行を計画中。



プライベートの充実が第一

Q. ワーク・ライフ・バランス
は？

私の場合、妊娠してから現在まで毎日勤務で働いていますが、産後も隔日勤務者として、現場で活躍している女性消防士もいます。家族構成や家庭環境はもちろん、子育てに対する考え方も人それぞれなので、個々の状況に応じて、柔軟に対応してもらえるのはありがたい、**「プライベートが充実していなければ、仕事でもよいパフォーマンスはできない」**という上司の言葉はとても心強いです。



趣味の手芸を生かして
みやたん用の救急車ペン
ダントを作りました。

「自分らしく」がモットー

Q. 男性ばかりの職場に入るこ
とに不安はありませんでした
か？

私は西宮市消防局の女性消防士1期生として採用されました。最初は、女性で運動経験もない私にできる業務があるのか不安でしたし、**「パイオニア」と**言われることにプレッシャーを感じていました。しかし、先輩や同僚に助けられながら、消防隊、救急隊、機関員等の様々な経験を積み、入局して6年後、念願であった救急救命士の資格を取得できたことが自信につながり、**「自分だからできること」**を考えるのが楽しくなりました。性別も個性のひとつ。これからも自分らしく、仕事に邁進します。

強い思いを持ち続ける

Q. 就活生へメッセージ
はありますか？

西宮市消防局の女性消防士は皆、スーパーウーマンではなく、ごく一般的な女性ばかりです。ただ、市民の助けになりたいという強い思いがあり、その思いを糧に業務に邁進しています。もし、消防という仕事に興味はあるのに、体力等の面で迷っているならば、その心配はいりません。思い切って飛び込んでみてください。市民の助けになりたいという強い思いを持って、私たちと共に西宮市を守っていきましょう。

西宮市消防局の広報ビデオもご覧ください！！



西宮市消防局 女性職員の声



憧れを職業に
使命感を原動力に

警防部 指令課 消防主任
階級 消防司令補

平成14年入局。
予防係、警防隊、機関員、救急救命士を経て、令和元年より現職。
趣味は、ドライブ、カラオケ、キャンプ。

消防士の姿に憧れを抱く

Q. この仕事を選んだ理由は？

西宮市内の中学校で唯一「少年消防クラブ」がある中学校に通っていましたが、最後の1年間だけでしたが消防部に入部し、そこで出会った消防士さん達や消防車に憧れて消防士を目指しました。



休日は、ドライブに行き、綺麗な景色を見て楽しんでいます。

使命感が原動力

Q. 仕事をしていて、どのようなときに「やりがい」を感じますか？

現在、指令課で通信指令員として勤務しています。

助けを求める「声」だけで災害の状況把握や傷病者の緊急度・重症度を判断し、出動指令を行わなければなりません。また通報者の状態によっては聞き取りが困難なこともあります。現場活動とは違った緊迫感やプレッシャーを感じますが、活動隊と連携して対応することにやりがいを感じます。

自分らしさを大事に

Q. 就活生へメッセージはありますか？

近年女性消防士の活躍の機会は増えており、自分自身の力を活かせる場が必ずあると思っています。西宮市消防局には様々な経歴の女性消防士が働いていますが、あなただけの生き方を消防で見つけてください。

一緒に頑張りましょう。

西宮市消防局の広報ビデオもご覧ください！！



西宮市消防局 女性職員の声



女性消防士だからこそ
“自分らしさ”を武器に

鳴尾消防署 警防総括第2係
階級 消防士

平成21年入庁。
趣味は旅行で、日本各地の観光をしたり、名産を食べ歩くことが大好き。（現在はコロナ禍のため自粛中）
休日は子どもたちと外で遊んだり、自宅ではアニメや映画観賞等をして過ごしている。

福利厚生も充実！

Q. 仕事と家庭の両立は？

育児休業から復帰直後の不安は、計り知れないものがありました。しかし、仕事と家庭の両立に慣れない私を、家族や同僚が理解し、支えてくれたからこそ、乗り越えることが出来ました。また、西宮市は福利厚生も充実しており、子どもと過ごす時間も十分に確保できます。これからも仕事と家庭の両立に奮闘する日々が続きますが、その分やりがいもひとしおです。



休日、子どもたちと一緒に畑仕事を
した時の風景です

女性消防士の業務も多様

Q. どんな仕事内容がある？

現在は、交替制勤務者の消防隊として火災現場等で活動しています。過去には救急救命士として現場活動を行い、また、はしご自動車等操作資格も取得しているので、はしご車での出動も経験しました。産後は、育児休業を取得し、仕事から一切離れていた時期もありました。復職後は、幼い子どもと過ごすことに配慮してもらい、毎日勤務者として予防業務に携わりました。このように、いろいろな業務が経験できることも、西宮市消防局の魅力です。



毎年、桜の季節には
散歩を兼ねて家族と
訪れる場所です

西宮市消防局の広報ビデオもご覧ください！！



西宮市消防局 女性職員の声



市民を助けたい
その思いで成長できた

北消防署 救急第2係
階級 消防士

平成21年入局。
警防隊、予防係を経て、平成25年より現職。
趣味は料理、CrossFit（筋トレ）、猫。

消防士の姿に憧れを抱く

Q. この仕事を選んだ理由は？

学生の時、交通事故に偶然居合わせ、救急車をお願いすることがありました。当時は怪我をした方の傍らにいたことしかできませんでしたが、救急車がやってきた時の安堵感は今でも鮮明に覚えています。

その時に「私も救急車に乗りたい!」と思ったことがきっかけです。



休日の様子です。
趣味のCrossFit（筋トレ）
を楽しんでいます。

困っている人に寄り添う

Q. 仕事をしていて、どのようなときに「やりがい」を感じますか？

救急車に乗っていると、女性の救急隊員がいることに驚かれるとともに、女性が来てくれて良かった!とのお声をいただくことが多くあります。

特に、女性特有の疾病で困らている市民の方や、お子様の患者様により必要とされていると感じます。

おそらく、私たちが現場で市民の方々にお会いする時は、人生で一番困っておられる時です。その時に少しでも不安を和らげることができるこの仕事は大変やりがいがあると思っています。

自分らしさを大事に

Q. 就活生へメッセージはありますか？

私は運動経験が全くなく、消防の世界に飛び込んできました。屈強な体力はもちろんなく、不安でたまらなかった日々でした。

しかし、役に立たないながらも、少しずつでも仕事で足を引っ張らないように過ごしていくうちに、何とか13年仕事を続けることができました。

最初から完璧な人はいません。成長速度も人それぞれです。自分らしく取り組みながら、一緒に市民の方々の安心・安全を守りましょう。

西宮市消防局の広報ビデオもご覧ください!!



西宮市消防局 女性職員の声

感謝の言葉を力に変えて
初心の気持ちを忘れずに

鳴尾消防署 救急第1係
階級 消防士

平成29年入局。

出身地：大阪府
趣味は登山、愛犬の散歩。
百名山をすべて登頂するのが密かな夢です。



消防士の姿に憧れを抱く

Q. この仕事を選んだ理由は？

私は、中学高校大学と部活動でバレーボールをしていました。高校生のときに部活動中に大怪我をし、救急車にお世話になりました。不安で絶望感に襲われていた私に対し、救急隊の方は優しく声をかけて、勇気づけてくれました。このことがきっかけで、「消防士」という仕事に憧れを抱き、志すようになりました。



登山に行った時の写真です

守りたいという強い使命感

Q. 消防士として必要な資質は何だと思いますか？

消防は、災害から市民の命や財産を守る仕事です。そのため、「市民を助けたい」という強い使命感を持つことが何よりも大切だと思います。

また、災害現場では常に危険と隣り合わせです。そのため、個々の能力以上に隊で連携するチームワークこそが、最善の活動につながります。常に冷静に状況を判断し行動できる能力も必要だと思います。

しんどいこともあります。市民の方から感謝の言葉をいただいた時には、何にも代えがたいやりがいを感じます。

勇気を出して一步踏み出して

Q. 就活生へメッセージはありますか？

「消防」という仕事を調べるほど体力面や様々な面で不安に思うことが多いかと思っています。実際、私もその1人でした。

しかし、仕事を始めてみると、上司や先輩が優しくアドバイスしてくださるので、女性でも働きやすい環境だと感じています。体力や筋力は性差があり、悔しい気持ちを持つこともあります。その分私にしかできないことを見つけて一生懸命に取り組んでいます。必ず活躍できる場所は一人ひとりにあると思っています。「なりたい」という強い気持ちをもって採用試験に挑戦してください。一緒に働ける日を楽しみにしています。

西宮市消防局の広報ビデオもご覧ください！！



西宮市消防局 女性職員の声

「女性がいてくれてよかった」。
その言葉が私の原動力。

瓦木消防署 警防救助第1係
階級 消防士

令和元年入局。
趣味はフローヨガ、カフェ巡り、読書。
4歳から14年間、水泳とピアノをしていました。



女性救命士の姿に心を打たれ、決意

Q. この仕事を選んだ理由は？

小学生の頃、避難訓練で講習をしてくれた消防士の方々の姿を見て、憧れと興味を持ったのが始まりでした。興味はあったものの、その当時は消防士は男性の職業だという認識が強く、他の職業に進もうと思っていました。

しかし、女性の救急救命士が活躍するテレビドラマを見た時に心を打たれ、私もこんな風に困っている人のもとにいち早く駆けつけ、命を救う仕事に就きたいと強く思い、救急救命士の資格を最大限に生かせる消防士を選びました。



ヨガを始めてから、柔軟性が高まりました。

一つ一つの達成感がやりに

Q. 男性の多い職場で働くことに不安はありませんでしたか？

私が配属されている警防救助係は主に警防隊員として活動するため、消防署に配属された当初は、女性である私が足を引っ張ってしまうのではないかと不安がありました。

しかし、上司や先輩方が日々熱心に指導して下さるので、訓練を重ね、現場を経験していくうちに活動への不安が少しずつ自信へと変わっていきました。「私でも警防隊員として活動できるんだ」と実感できたことで仕事への不安がなくなり、一つ一つの達成感がこの仕事へのやりに繋がります。

様々な業務で活躍できます！

Q. 就活生へメッセージはありますか？

消防という仕事は火災現場で活動する体力重視の職業というイメージがありますが、女性消防士の先輩方は、救急現場や指令課、予防係など、様々な分野で活躍されています。

ただ、西宮市消防局では全職員に対する女性の割合がまだまだ少ないのが現状です。だからこそ、皆さんが貴重な存在であり、女性であることを活かし、活躍できる新しい可能性を秘めていると思います。

西宮市で、皆さんと働く日を心待ちにしています！

西宮市消防局の広報ビデオもご覧ください！！

